

参考資料 3-2

第4次小田原市一般廃棄物処理基本計画に係る第2回環境審議会意見対応表

項番	意見	第2回環境審議会における回答	計画修正 有無	対応方針（担当課）
1	34頁、ごみ処理広域化のための構想に関する記載について、建設候補予定地の選定について、選定案を作成する際に市民も交えて候補地を検討していただきたい。（高田委員）	一般的には用地選定委員会を設置し、この選定委員会の中に、学識経験者の方や、産業や地域の方、一般公募の方を含め、意見を伺いながら決めていくことが一般的である。今後のことになるが、おそらく、こうした方法で進めていくこととなる。	無	小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化協議会で選定方法について、ご意見を参考に検討していきます。
2	審議事項1において、高田委員からご指摘があった2R、リデュース、リユースの取組、意識啓発について、一般廃棄物処理基本計画における追記を検討してはいかがか。（田中会長）	2Rについて、見直し案27頁、各種の施策の中で、発生抑制・再使用に重点を置いたごみの減量化の推進として、減量や発生抑制の重要性を記載しており、中程では、家庭ごみの減量等についても記載している。28頁、『リユースの推進』において、民間事業者との事業協定を行い、リユースの取組を推進していきたい旨を記載しているが、ご意見を踏まえ追記できるか検討を行いたい。	有	P21「第2章7(1)ア市民の意識」にリデュース、リユースによるごみの発生抑制の重要性を追記することで、P26「第2章10(1)発生抑制・再使用に重点を置いたごみの減量化の推進」へのつながりを持たせました。
3	二点目、資料3 25頁、青字記載の『資源化率（これまでの市定義）』、『資源化率（国定義）』とあり、下の表の中『③資源化率（市定義）』を指すのか伺いたい。 25頁、資源化率の算定方法については、これまでの算定方法と新しい算定方法と表記した方がわかりやすいのではないか。（田中会長）	本文に記載している『資源化率（これまでの市定義）』と、表に記載している『③資源化率（市定義）』は同じものを指している。定義を変更したが、参照として、今までの算定方法を記載した。	有	P25「第2章9ごみの減量化・資源化の数値目標」において、「市定義」を「これまでの算定方法」、また「国定義」を「新しい算定方法」に記載方法を変更した。
4	当日配布資料35頁、『第3章 食品ロス削減推進計画』について、この章を全て追記したということか。（田中会長）	見やすいように黒字とさせていただいていたが、章全てが見直しによる追加部分である。	有	第3章について、新規に追加した部分全体を赤字にしました。
5	25頁中段の『本計画の見直しを行い』とあるが、この一般廃棄物処理基本計画を指しているということか。そういうことであれば、こうした表記は、第1章に、昨年度、中間評価を行い、見直しを行ったという経緯を記載してはどうか。（田中会長）	本計画とは、この一般廃棄物処理基本計画を指している。	無	P4「第1章3計画期間」に見直しの経緯の記載があります。
6	高齢化が進む中で、一人暮らしをされている高齢者の方のごみの収集体制について、福祉と連動していく等、記載はあるか伺いたい。（杉崎委員）	高齢者の方等に対する収集サービスについては、当日配布資料の31頁、（3）安定的・継続的なごみの適正処理の推進 高齢化等に対応した収集サービスの向上に記載している。	無	P31（3）安定的・継続的なごみの適正処理の推進 高齢化等に対応した収集サービスの向上に記載があります。
7	31頁『訪問時に安否確認を行うなど』という記載内容は、重要であると思う。一人暮らしの高齢者の方に対する地域での見守り体制は重要であるが、郵便局等でも配送の際に安否確認をするサービスもあり、こうした郵便局との連携等も含め安否確認を行えるような仕組みができると良いと思う。（増原委員）	例えば、民生委員の方や、高齢者関係の対応を行う部署等が中心となって、様々な連携をしながら見守りの体制を構築している。必要に応じて、こうした体制に参加していけるようにしたい。	無	高齢者戸別収集の検討を行う際には、安否確認を含めた取組となるよう検討します。
8	現在は、紙布類の戸別収集を行っている」と記載されているが、高齢者や障害のある方に対する、一般ごみの収集は行っていないのか。（長嶋委員）	古紙等は、希望に応じて戸別収集を行っているが、一般のごみに関しては、ステーション収集を行っている。	無	一般のごみについても、高齢者戸別収集の検討を進めます。
9	周囲の方に聞くと、一般ごみの方が戸別収集の需要があるようである。高齢者や障害のある方、ほかにも骨折などの怪我をされている方等にも、そうした対応が必要だと思う。安心して暮らせる環境づくりのためにも、そうした対応を検討してほしい。（長嶋委員）	地域によっては、見守り隊などが、有料ではあるが、そうしたサポートを実施している。高齢者収集に関しては、令和4～5年度に実証実験として、一部地域に限り、高齢者や介護認定を受けられている方を対象に行ったが、人員や車両、費用面等課題があり、現在は検討を行っている。	無	高齢者戸別収集の検討にあたっては、その他ごみの排出が困難な世帯等、その対象についても収集サービスの向上の観点から検討を進めていきます。
10	資料3 25頁、③資源化率について、焼却灰の資源化量が、新たな数値目標③資源化率にも含まれることが表からでもわかるように記載してはどうか。（奥委員・事前）	記載方法を検討する。	有	P25「第2章9ごみの減量化・資源化の数値目標」の表に注釈を追記しました。